

暑さ厳しき折から、会員のみなさまにおかれましていかにお過ごしでしょうか。今年度の第49回滋賀大会の報告を中心に、『通信』第169号をお届けします。滋賀大会は天候にも恵まれ、風光明媚な琵琶湖のほとりで、多数の方々にご参加いただき開催することができました。大会開催にご尽力くださいました実行委員のみなさま、大会参加記をお寄せくださいましたみなさまにお礼申し上げます。

I. 大会報告

全国地方教育史学会第49回滋賀大会記

杉浦 由香里（滋賀県立大学）

2026年5月30日（土）・31日（日）の2日間にわたり、第49回滋賀大会を滋賀県大津市にて開催いたしました。大津市は、滋賀県の県庁所在地でもあり、交通の便も良いことから、多くの方々にご参加いただくことができました。1日目の資料見学会・懇親会の参加者は35名、2日目の研究発表・シンポジウムには58名の方々にご参加いただきました。大会運営上、至らない点多々ありましたが、ご参加くださった皆様に、心よりお礼申し上げます。

大会初日は、滋賀県立公文書館にて資料見学会を実施しました。同館は、滋賀県庁新館3階にあるため、基本的に土・日曜日は休館日ですが、本大会のために特別に開館いただきました。資料見学会では、まず、同館の認証アーキビストである大月英雄氏より「滋賀県立公文書館について－公文書管理条約の制定と県史編さん事業」についてご報告いただきました。県政史料室から県立公文書館へと改組された経緯をご説明いただくとともに、現在、滋賀県立公文書館が携わる県史編さん事業を通じた取り組みの数々についてご紹介いただきました。続いて、同館所蔵資料の活用方法について、宮坂朋幸会員（大阪商業大学）ならびに久保田重幸会員（三重大学）にご報告いただきました。

その後、2つのグループに分かれて滋賀県立公文書館の書庫ならびに県民情報室を見学するとともに、同館閲覧室にて予めこちらで選定した明治期から昭和期にかけての教育関係の歴史公文書の閲覧を実施しました。表1は、簿冊目録データから選定した閲覧資料の簿冊名一覧です。今回の資料閲覧をきっかけに再調査を行う場合の参考になれば幸いです。

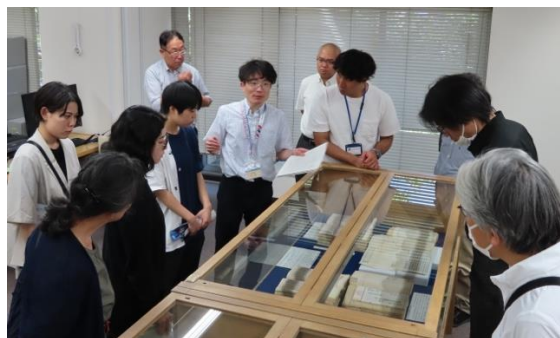


表1 資料見学会閲覧資料簿冊名一覧

分類	請求番号	合本	簿冊名	合本名	組織	簿冊の年次
1 教育1 明	し 161	1	学事書類	明治5年、学制、初編、二編	学校専務	1872
2 教育1 明	し 162	1	督学局伺局留(教育沿革史資料他)	明治7年、督学局伺局留	学務課	1874
3 教育1 明	し 163		明治8年、伝習所一件		学務課	1874 ~ 1876
4 教育1 明	し 164	1	学事書類	明治10年、建言書類	学務課	1877
5 教育1 明	し 168	1	女子師範学校設立書類	明治15年6月、女子師範学校設立書類	学務課	1882
6 教育2 明	し 184		従明治40年2月、県立学校長会議案件		内務部教育課	1907 ~ 1919
7 教育1 大	し 189		中等学校		教育課	1923 ~ 1927
8 教育2 大	し 211		自大正8年至大正11年、雑、学事		教育課	1918 ~ 1922
9 教育2 大	し 214		大正8から15年、図書館		教育課	1919 ~ 1926
10 教育2 大	し 215		大正8から15年、私立学校		教育課	1918 ~ 1926
11 教育2 大	し 226		雑		教育課	1926 ~ 1930
12 教育1 昭	し 155	1	中等教育	師範及び中学調査書	学務課	1930
13 教育1 昭	し 157		学校教員に関する書類		学務課	1930 ~ 1936
14 教育1 昭	し 160		中等教育(実業学校)		数学課	1938 ~ 1943
15 教育3 昭	し 385	1	私立学校	私立学校	学務課	1936 ~ 1941

滋賀県立公文書館では、特定歴史公文書のうち明治～昭和戦前期にかけての目録を Excel 形式で公開しており、[同館ホームページ「資料目録」](#)よりダウンロードすることができます。教育関係資料目録【明し】【大し】【昭し】の Excel ファイルと照合すれば、各簿冊のより詳細な件名目録を確認することができます。なお、教育関係資料の件名目録ファイルには、簿冊名の記載がないため、簿冊目録のファイルも一緒にダウンロードすることをお勧めします。

限られた時間ではありましたが、参加者の皆さまは大変熱心に資料に目を通され、同館所蔵の教育史料の特色に触れていただくよい機会になったのではないかと思います。



資料見学会終了後は、「でんや石山駅前店」にて懇親会を開催しました。懇親会では、滋賀県の地酒をご賞味いただきながら親睦を深めました。和やかな雰囲気の中で料理や地酒に舌鼓を打ちつつ、それぞれの研究について語りあう姿が随所で見られ、楽しいひとときとなりました。

2 日目は、琵琶湖畔に接するピアザ淡海（滋賀県立県民交流センター）にて研究発表・シンポジウム・総会を開催しました。本大会では、10名の会員から研究発表の申し込みがあり、午前中は2会場に分かれて報告がなされました。いずれの会場でも活発な質疑応答が交わされました。発表者ならびに司会を引き受けくださった会員

の皆さまに感謝申し上げます。

午後の公開シンポジウムでは、「自治体教育史をなぜ作るのか、どう作るのか」をテーマに、吉川卓治会員（シンポジウム担当幹事）と宮坂朋幸会員の司会のもと、前田一男会員（立教大学名誉教授）と木全清博氏（滋賀大学名誉教授）にご報告いただきました。前田一男会員からは、ご自身の自治体史編さんのご経験をふまえたご報告とご提案がなされました。続いて、長年、滋賀県教育史研究に尽力されてきた木全清博氏からは、滋賀県教育史研究にあたっての基本姿勢と展望が語られました。お二人の報告を受けて、コメンテーターである田中智子氏（京都大学）からは、現在進行している滋賀県史編さんの現状を交えながら自治体教育史をめぐる論点と課題が示されました。

討論では、自治体教育史編さんの意義や方法論、今後の課題について議論が展開されました。行政主導による県教育史編さんがなされてこなかったゆえのメリット・デメリットをふまえながら、来たる日の滋賀県教育史編さんの実現を見据えた展望や滋賀県教育史研究の可能性について意見交換が行われました。公開シンポジウムを通じて、自治体教育史編さんの意義と課題を共有し、今後の研究の発展に向けた有益な議論を深めることができましたように思います。

二日間にわたり、琵琶湖のほとりで参加者の皆さまと充実した時間を過ごすことができました。本大会の運営にご協力くださった皆さまに改めてお礼申し上げます。

※なお、シンポジウム時に配布した木全氏の資料の4頁目が落丁しておりました。ご本人の了解を得て、木全氏のシンポジウム資料を再掲します。下記リンクより各自ダウンロードください。学会ホームページに本会報のPDFを掲載しております。下記リンクにアクセスする際にご利用ください。

https://drive.google.com/file/d/1rXiHBW-MQjN70X0s3s_aKLpaZONKDIJR/view?usp=share_link

第49回全国地方教育史学会滋賀大会に参加して

中山 正則（筑波大学人間総合科学学術院）

新入会員として今大会に参加させていただき、大変お世話になりました。私自身は、戦後の社会科の成立について、地元の埼玉県の川口プランを主体に、大正自由教育や戦前の郷土教育から川口プランの始まるきっかけがあると考え、川口市議会や川口市内の学校現場の資料を中心に研究を進めています。

大会1日目は、滋賀県立公文書館を会場に、公文書館の大月英雄様より、「公文書管理規定と県史編さん事業について」話を伺った。私自身1969年開設の埼玉県立文書館（県教育委員会管轄）を中心に、1981年頃から埼玉県史や埼玉県荒川総合調査、同中川水系総合調査に携わっていたので、「県史編さん」と聞くと、懐かしく感じながら話を聞いていました。すると、滋賀県立公文書館は2020年開館（県知事部局管轄）で、開館以降の最大の事業が2022年9月の滋賀県誕生150年を節目とした県史編さん事業を聞き、大きく前進したのだなと感じました。実際に収蔵庫を見学し、これからの整理、保管が大変だろうなと感じました。続いて、大阪商業大の宮坂朋幸先生より、滋賀県「特定歴史公文書」の魅力と題して、その資料的価値、特に「史料批判」がほぼ不要の「一次資料」群ということで話を伺った。また、三重大の久保田重幸先生から、滋賀県立公文書館の学校教育連携事業として行われた「公文書館の歴史資料を用いた授業」についての概要や事後の生徒・教員のアンケートによる変容などについて伺った。発展として滋賀県史の戦前の資料編作成に合わせて特別展を実施し、県史資料編掲載の24点について解説、翻刻文、現代語訳を付け、授業活用方法を追記した「滋賀県史授業活用マニュアル」とし、県内小中高校に配布する話を伺い、滋賀県史編さんの今後が楽しみと感じました。

夜は、この学会参加の一番のお薦め、滋賀県立大の杉浦由香里先生の尽力で、滋賀の銘酒を交えて石山駅前「で

んや」で数多くの先生方と懇親を深めることができた。

大会2日目は、会場を琵琶湖沿岸の滋賀県立県民交流センター「ピアザ淡海」に移して、午前中10本の研究発表。午後は、「自治体教育史をなぜ作るのか、どう作るのか」をテーマに立教大名誉教授の前田一男先生、滋賀大名誉教授の木全清博先生から提案と、京都大の田中智子先生から指定討論があった。前田提案では、長野県教育史の編さんの仕事を「現場の教員にとっての『研修』として位置付けていたこと、即ち先生方に「自分の学校の歴史を調べて下さい。」というスタンスで取り組ませて時代区分も長野県独自としたこと。横浜市史では、開港以前は散村だったことから開港が歴史のスタートだったことなど、携わった事例をもとにそれぞれの特色が話された。木全提案では、戦前からの滋賀県内の市町村による教育史について調べられたことや、「唯一県教育史の無い県 滋賀県」が話題に上がった。指定討論の田中智子先生からは、教員中心の視点による教育史のことや県教育史の編さんが唯一成されていない滋賀県、開かれた自治体（教育）史についての話があった。その後、総会で日程を終了した。

滋賀での大会は、充実した学びの2日間であった。準備をされた皆様、ありがとうございました。

来年は佐藤環先生の尽力で6月5日（土）、6日（日）第50回大会が茨城県水戸市で開催とのこと。楽しみである。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

第49回滋賀大会に参加して

義根 益美（明石市）

2024年度に入会させていただきました義根益美と申します。明石女子師範学校附属小学校の主事だった及川平治の史料に出会って以来、明石市域における教育をライフワークにしていますが、日々の業務では家文書とか在方文書と呼ばれている史料の整理・保存・活用のための作業に従事しています。全くの教育学、教育史の世界で生きているわけではない私を、いつも温かく迎えて下さり、ありがとうございます。

施設見学会の会場となった県立公文書館では、中性紙箱に収められた史料が整然と可動式の書架に並べられている書庫に目を奪われました。この大きさなのに持ち手がついている!? それは私の見たこともない光景でした。書庫を案内して下さった大月英雄様が手際よくサッと書架から箱を取り出され、中に収納されている史料をみせてくださったとき、あぁなんて丁度いい分量!と感嘆していると、「特注です」との説明。文書の保存と活用を効率よくするための工夫は、文書を扱う職員の負担を減らす効果もあり、とても大切なことだと実感しました。史料見学会では、50年以上が経過した史料にはマスキングをせずに公開するとご教示くださいました。ありがとうございました。

2日目の研究発表やシンポジウムでも、たくさんのことを学ばせていただきました。小宮山会員の教員団の報告や榎田会員の平野秀吉の履歴をもとにした報告に、明石女子師範学校教員の履歴や教員団の特徴が重なり、白石会員の報告に明石郡教育会ってなんだ?という疑問の解決の糸口がみつかったような気になり、三羽報告では明石にも実業学校があったけれど調べてなかったなと反省し、久保田会員の報告に明石の裁縫学校に通っていた女の子の作文を読んで「良妻賢母教育」の学校だったと解釈していたけれど「働妻健母教育」と理解しなくてはいけない話だったのだと脳天を打ち抜かれました。明石ではない地域の話なのに、明石のことを知るための道筋を照らしていただけたのでした。

木全清博氏の「県教育史がない県を嘆いているわけではない。自分がすればいいと思った」というご発言にも心を打たれ、平成の大合併のお話に衝撃を受けました。市町村合併と学校再編は表裏一体で、新しい校種の新しい学校が誕生しつつある現在、「自校の歴史を前身校時代までを視野にした学校史」は可能なのか…。

また、「自治体史は史料編と本編の両方を作るべき」という会場からのご発言に深く共鳴しました。本編だけで

は、読者はその記述以上の知識を得ることはできません。久保田会員の報告にあった高校生の感想「当時のままの文章にふれることでそのままの考えが伝わって」くるのが史料編なのですから。史料編が教材になる自治体史っていいなあ、と思った次第です。

刺激に満ちたあつという間の2日間でした。ありがとうございました。これからもよろしくお願い申し上げます。

大津大会参加雑記帖

逸見 勝亮（北海道大学文書館）

0. 滋賀大学経済経営研究所「戦争孤児」資料調査（彦根市）、伊藤若冲「象と鯨図屏風」（甲賀市）・長壽寺（湖南市）探訪の折りに経由した大津に、初めて宿泊した。

1. 5月30日に拝聴した大月英雄氏（滋賀県立公文書館）「滋賀県立公文書館について—公文書管理条例の制定と県史編さん事業」、久保田重行会員（三重大学）「公文書館の歴史資料を用いた学習の研究—滋賀県立公文書館による学校教育連携事業を事例として」は、傾聴に値する報告であった。

大月報告中の「県史編さん事業が拓げる公文書館機能」は、県史編纂の展望をよく示していた。久保田報告は、授業の達成は教員と館員とが協力して教材とする公文書資料を選定したことに依っていたという点に特に惹かれた。

2. 見学会で拝見した所蔵公文書群は重厚であった。私が読んだ簿冊には、教練用小銃・銃剣・背囊を払い下げるにつき、各中等学校所蔵状況の報告を求める学務部長通知と調査結果一覧表があった。銃所蔵状況のバラツキ、背囊の損壊を興味深く読んだ。もっと読んでいたかった。

3. 懇親会で、T会員から「学恩ある5人」を問われ、5人の1人に黒羽清隆を挙げた途端にT会員は「黒羽さん！」と。北大以外で、黒羽清隆を共通の話題とできた最初である。

4. 翌31日の山本銀平発表では、「教室内の机の配置と児童の組み合わせ」図に惹かれた。1951～52年に室蘭市立天沢小学校で経験した班別学習に酷似していたからである。

山片崇嗣発表では、生徒は正規授業の外の活動である「学校農業クラブ」でこそ生気をみなぎらせていると想像した。

柏木敦発表は、中小零細企業の労働条件と若年労働者の高校進学要求との兼ね合い如何を今少し聴きたいと念じた。

私の発表に対し、岡本会員が占領下で「英霊歓迎」がどう行われたかと質問された。しかし、「校務日誌」が記している以上のことはわからなかった。帰札後に埼玉県が敗戦後も「英霊歓迎」継続方を通知していると知った。

5. シンポジウムでは、木全清博・田中智子両会員の発表・コメントを謙虚・誠実・頼もしいと拝聴した。私の直感を記せば、滋賀県教育史編纂事業は「人を得ている」である。

木全会員とは40年ぶりに再会した。

6. 学会の合間に、大津市立図書館で壺井栄『二十四の瞳』（新潮文庫、初版1957年）を読み、和菓子屋の黒檀製違い棚を愛で、旧東海道を歩き、曳山の来歴を聞き、湖畔の釣り師に大ナマズの「ぼかん釣り」につき教を請うた。

7. 「いづくよりや帰られたりけん」との負け戦を言わぬ負け戦の語感、藤原俊成が「詠み人知らず」とした「さざなみや志賀の都は荒れにしを昔ながらの山桜かな」（薩摩守忠度）、私は大津で『平家物語』にひたっていた。

【総会報告】

○第1号議案 会務報告（承認）

・会員数 133名（2025年度130名/2024年度127名）

○第2号議案：2025年度決算および監査報告（承認）

○第3号議案：2026年度予算（承認）

○第4号議案：会長・幹事の改選（承認）

会長 佐藤 環（茨城大学・再任）

常任幹事（10名） 池田 雅則（兵庫県立大学・再任）

板橋 孝幸（奈良教育大学・新任）

軽部勝一郎（甲南女子大学・再任）

小宮山道夫（広島大学・再任）

白石 崇人（広島大学・新任）

野口 穂高（早稲田大学・再任）

三上 敦史（早稲田大学・再任）

吉川 卓治（名古屋大学・再任）

吉野 剛弘（慶應義塾大学（非）・再任）

渡辺 典子（群馬県立女子大学・再任）

全国幹事（5名） **加藤 善子（信州大学・新任）**

木村 政伸（西南女学院大学・再任）

杉浦由香里（滋賀県立大学・再任）

鈴木 和正（常葉大学・新任）

須田 将司（学習院大学・再任）

II. 諸連絡

【寄贈図書】（前号から2026年7月12日までの事務局到着分）

- ・阪本美江会員より：阪本美江著『「劣等児」「特別学級」の思想と実践』大空社出版、2021年5月。
- ・名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育史研究室より：『教育史研究室年報』第31号、2026年3月。本学会員の執筆稿は次の通りです。広川由子、吉川卓治「新制中学校発足期における外国語科（英語）の実施状況―千葉県山武郡源中学校を中心に―」。杉浦由香里『「広報きら」教育関係記事目録（2）』。

III. 事務局より

【『地方教育史研究』第47号の発送について】

2026年度会費を納入いただいた方に、7月18日以降、順次発送いたします。発送が遅れておりますことをお詫びいたします。

【第50回水戸大会について】

佐藤環会長により、史料見学会は2027年6月5日（土）に旧水戸藩校弘道館、研究発表・シンポジウム・総会は6月6日（日）に水戸市民会館にて開催の予定で、準備が進められています。

【会費納入について】

今回の通信に金額入り（¥4,000）の振込用紙が同封されている方は、2026年度分が未納ですので、納入をお願いします。金額なしの振込用紙が同封されている方は過年度に未納分がありますので、封入したメモをご覧ください。

り、未納分も納入して下さい。入金された旨、ゆうちょ銀行から連絡がありましたら、速やかに当該年度の『地方教育史研究』を送送します。

【紀要のバックナンバーについて】

紀要のバックナンバーを購入することが可能です。1部につき1,000円（送料込み）です。在庫及び詳細については、学会HP内の「紀要」→『『地方教育史研究』バックナンバー』をご参照ください。

全国地方教育史学会 事務局

〒658-0001 兵庫県神戸市東灘区森北町6-2-23

甲南女子大学教育学部子ども教育学科 軽部勝一郎 研究室内

TEL 078-413-3060 FAX 078-413-3007

E-mail kkarube@konan-wu.ac.jp

公式HP <https://assoc-zekyoiku.w.waseda.jp/>
